

## 創造へ、そして失敗

伊耶那岐の命詔りたまひしく、「然らば  
吾と汝と、この天之御柱を行き廻り逢ひて、  
美斗の麻具波比せむ」とのりたまひき。

## ／解説／

【伊耶那岐の命詔りたまひしく、「然らば吾と汝と、この天之御柱を行き廻り逢ひて、美斗の麻具波比せむ」とのりたまひき。】

天の御柱とは主体を表わす五母音アオウエイ（伊耶那岐の命）の事であり、それに対する客体の半母音ワヲウエヰ（伊耶那美の命）の柱は国の御柱と呼ばれます。この天の御柱と国の御柱は先にお話しましたように相対的に双方が離れて対立する場合と、絶対的に主体（岐）と客体（美）とが一つとなって働く場合があります。今、この文章で伊耶那岐と伊耶那美が天の御柱を左と右から「行き廻り合う」という時には図の如く絶対的な立場と考えられます。その場合の天の御柱とは、実は天の御柱と国の御柱とが一体となっている絶対的立場を言っているのだとご承知下さい。



八つの父韻は陰陽、作用・反作用の二つ一組の四組より成っています。即ちチイ・キミ・シリ・ヒニの四組です。伊耶那岐と伊耶那美が天の御柱を左と右の反対方向に廻り合うという事になりますと、左は靈足（ひた）りて陽、右は身切（みき）りて陰という事になり、伊耶那岐は左廻りで八父韻の陽であるチキシヒを分担し、伊耶那美は右廻りで八父韻の陰であるイミリニを分担していると言うことができます。

「美斗の麻具波比せむ」の「美斗」とは辞書に御門・御床の意。寢床をいう、とあります。麻具波比とは「目合い」または「招（ま）ぎ合い」の意。美斗の麻具波比で男女の交接すること、の意となります。即ち「結婚しよう」という事です。竹内文献には「ミトルツナマグハヒ」と書かれています。陰陽の綱を招（ま）ぎ合い、縶（よ）り合って七五三縄（しめなわ）を作ることを謂います。即ち夫婦の婚（とつ）ぎ（十作）（とつぎ）の法則に通じます。この事については子音創生の所で詳しく解説いたします。